

## 日文教科書の編集方針

# 美術の学びで3年間の成長を後押し

予測困難な社会を生き抜く生徒たちに必要なのは、豊かな感性を育みながら自ら課題を発見し、試行錯誤しながら解決方法を探り、新たな価値を創造する「美術の学び」です。  
本教科書は、中学3年間の各学年の資質・能力に合わせて生徒の成長に応じた3分冊として内容を構成しています。

## これからの時代を生き抜く 資質・能力を養う美術の学び

中学3年間それぞれの発達に応じた造形的な見方・感じ方を示し、豊かな感性を育むことで美術科の資質・能力を養うことができる教科書です。

## 豊かな感性を育み、 想像する喜びを実感する美術の学び

表現や鑑賞の多様な活動を通して、創造活動の喜びや美術文化への理解を深め、造形的な視点を養い、生徒自身が成長を実感できる教科書です。

## 生活や社会に豊かに関わる 美術の学び

さまざまな作品や活動と出会い、体験することで、生徒自身が自分ごととして受け入れ、多様な表現と価値観に触れられる教科書です。

## 小学校 図画工作



## 美術① 美術との 出会い



## 美術② 学びの実感 と深まり



## 美術③ 学びの探求 と未来



### TOPICS

## 考えさせる、気付かせる学習プロセスの重視と 中学校美術科の学びの明確化

中学校美術科は、何を学ぶ教科なのでしょうか。美術科の教科目標には「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力」を育成することが明示されています。美術や美術文化への豊かな関わり方としては、例えば、画家やデザイナー等美術に関する職業に就くこと、趣味で絵を描いたり美術鑑賞をしたりすること、デザインにこだわってものを選ぶこと、紅葉などを見て美しさを感じるなどが考えられます。どのような生活を送っても美術を身近に意識することで、普段の生活の中に楽しさや安らぎが感じられるのではないのでしょうか。美術

と豊かに関わるためには、造形的な視点を持つことが大切です。描き方、つくり方を学ぶことも必要ですが、中学3年間の学びの中でたくさんの造形のアンテナを獲得し、1年生の入学時には、気付かなかったことや考えもしなかったことが、卒業時には豊かに感じ取り考えられるようになる、このような学びの獲得が重要です。日本文の教科書では、「鑑賞の入り口」や「造形的な視点」を各題材ページに示しています。これは、表現や鑑賞の具体的なヒントになるとともに、造形的な見方や考え方を働かせてアンテナを獲得する視点にもなっています。



代表著者  
元文部科学省初等中等教育局  
教育課程課教科調査官  
元 IPU・環太平洋大学教授・副学長  
むらかみひさのり  
村上尚徳先生